

Fujizack フジザック 通信 19

教頭特別号



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。

【第19号】令和3年12月7日 文責：教頭 深山

地球環境を守ろう 今私たちが考えなければいけないこと

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震をはじめとする巨大地震や毎年発生する豪雨災害など、これからの時代を生きていく子どもたちには、自然災害から身を守る資質・能力を身に付けることもが求められています。特に、豪雨災害は、気候変動に伴って更に激甚化し、かつ発生する回数も増加しています。

気候変動とは何かと言われて一番最初にピンとくる話題は、地球の気温が昔に比べて高くなっている、いわゆる「地球温暖化」という言葉だと思います。地球の平均気温は西暦1800年ごろから上がりだし、現在までに約1℃上昇しているといわれています。では、気温が1℃上昇することで何が起きているのでしょうか。



北極や南極の氷が解けてそこに住むペンギン、シロクマが生きていけない。生物の絶滅も・・・

氷が解けて海水面が上昇し、海の中に沈んでしまう島がある。ツバルという国は水没の危機。

世界では雨が降らない地域や砂漠が拡大し農作物がとれなくなる。日本は多くの食料を輸入しています。

日本では豪雨が降ったり、強い台風が発生する。がけ崩れや洪水で家が流される、屋根が飛ばされる。

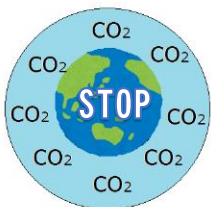
では「地球温暖化」ってどうして起こるのでしょ。地球はあたたかい天体です。その熱のもと太陽です。朝、冷え込んできた今の季節、太陽の光にあたるとあたたかいですよね。同じように地球自体も、太陽からの熱を受けてあたたまります。でも、あたたまり続けていると地球には熱がたまってしまい、気温がどんどん高くなっていきます。そうならないのは、地球は地球で、太陽から受けた熱を大気中や宇宙空間に放出しているからです。例えば地球が100の熱を太陽から受けたら、100の熱を放出します。だから地球は毎年同じ季節には、同じくらいの気温になるわけです。この地球の熱エネルギーシステムを発見したのが、先日ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎さんです。



ただ現在、人間が豊かで、便利な生活を送るために、石油や石炭を燃やしてエネルギーをつくる時に発生する二酸化炭素が問題になっているのです。この二酸化炭素の放出量は、植物の光合成による二酸化炭素の消費量よりも多いため、空気中の二酸化炭素の割合は確実に増えていきます。この空気中の二酸化炭素は、先ほどの地球から放出される熱の一部を吸収します。二酸化炭素が増えることで、二酸化炭素に吸収される熱が増え空気の温度が高くなっていきます。これが「地球温暖化」です。



子どもたちには、災害から身を守るといった、安全に関する資質・能力を身に付けるとともに、持続可能な社会の形成者、また未来の創り手として、地球環境を守っていくことが求められています。



「フクちゃん」を読んで・・・

フクちゃんという四コマ漫画が 1930 年代の半ばから 1970 年ころまである新聞に連載されていました。フクちゃんと彼を取り巻くおじいさん、フクちゃんの仲間、福祉施設で家庭教師を務める九州なまりの学生アラクマさんが織りなす素朴な日常生活の出来事を描いた作品で、作者は横山隆一さんです。東京の下町に住むフクちゃんは大富豪の親戚のおじいさんの養子となります。しかし、おじいさんはある日、大富豪の生活にピリオドを打ち、自宅を福祉施設にして多くの子供を受け入れ、自分はフクちゃんとともに長屋に引っ越して普通の市民としての生活を始めます。

作品を読んでみると、フクちゃんはサザエさん方式で年はとりません。何歳くらいの設定かわかりませんが、フクちゃんの学帽に園服（スモック？）、下駄というスタイルが現代でいう年長か小学校の低学年というイメージを沸かせます。フクちゃんの言葉遣いは、自分が主張するときの「～だい」とか、困った時の「イヤ～ン」がお得意のフレーズとなっています。鼻を触るというコミュニケーションの取り方をしている友達をみて真似をしたら争いになったり、おじいさんとアラクマさんが、ニンジンが嫌いなフクちゃんにニンジンを食べさせようと、細かく切って混ぜご飯をつくったもののニンジンだけより分けて残したりと、何となく本校で日常起こっているような内容があるように感じたりもします。

主人公のフクちゃんはいつも話題の中心で活躍しているわけではありません。人気者であったり、仲間と楽しく遊んだり、おじいさんやアラクマさんを思いやったりする場面もあれば、わがままから仲間外れにされたり、隣のおじいさんに怒られたりと、人間は成功と失敗、つまずきを繰り返し成長していくものだということを教えてくれます。いたずらをするために子ども同士が協力し合ったり、仲間をかばい守ったりする場面もあり、当時は普段の生活の中で身につけた力も数多くあったことを思い知らされます。子供たちを取り巻く生活環境や教育環境の変化をしっかりと受け止め、家庭や学校でしっかりと子どもたちを導いていくことが大切だと思います。

抵抗力をつけるために体を動かそう！

世間を騒がしている新型コロナウイルス感染症、令和2年1月に日本に入ってきてから間もなく2年が経とうとしています。今、感染者は全国的にもかなり少ない状況ですが、新たな「オミクロン株」なるコロナウイルスが世界中に拡がるのではないかと心配されています。今後とも気を緩めず感染症対策に取り組んでいきましょう。

新型コロナウイルス感染症対策

感染源を断つ

感染経路を絶つ

抵抗力を高める

新型コロナウイルス感染症対策としては、これまで、「感染源を絶つ」ために検温や健康観察を、「感染経路を絶つ」ために手指消毒、三密の回避、社会的距離の確保などに取り組んできました。ここでは、もう一つの対策「**抵抗力を高める**」について考えていきます。抵抗力を高める秘けつは「**十分な睡眠**」

「**バランスの取れた食事**」「**適度な運動**」です。どれも御家庭で取り組める内容なのですが、「**適度な運動**」って何をすれば…と考えてしまったときは、ま



ずは散歩やストレッチから取り組んでみてはいかがでしょうか。運動して体温が上がることで、血行も良くなり、抵抗力が正常に働くからだの状態をつくります。私自身は、春から秋にかけては、散歩したり、走ったりしています。冬は毎日とはいきませんが、スキーに行きます。スキーは、始めて48年がたちます。現在は草スキー大会に出場するなどしながら、のんびりとしたスキーライフを送っています。皆さんも健康に生活が送れるよう、できることをできる範囲で、たとえ1日5分のストレッチでもいいと思います。続けることに取り組んでみませんか。

